

# 2023年 年頭所感

## 国土交通省九州地方整備局

### 防災・減災、国土強靱化対策を 着実に推進

国土交通省九州地方整備局

局長 藤巻 浩之

年の台風14号での災害など、気候変動の影響が目に見えて現れています。

このため、気候変動への適

応策として治水対策の強化が

急務です。「防災・減災、国

土強靱化のための5か年加速

化対策」を着実に進め、流域

のあらゆる関係者が連携して

減災・防災に取り組む「流域

治水」を推進します。

伊万里港では、港湾関係車

両等の走行ルートの確保や取

扱貨物の輸送効率の向上及び

将来交通量の増加へ対応する

ため、昨年8月に伊万里港臨

港道路七ツ島線が開通しまし  
た。11月には有明海沿岸道路  
の大野島（おおのしま）IC  
（諸富（もろとみ）IC間が  
開通し、初めて福岡県と佐賀  
県が有明海沿岸道路で繋が  
り、三池（みいけ）港や佐賀  
国際空港などの交通拠点との  
連携強化が図られるなど、更  
なる地域経済の活性化が期待  
されます。

また、高規格道路である島  
原道路の一部を構成する森山  
拡幅の森山東ICと森山西IC  
間が令和5年度に開通する  
見通しです。長崎県とともに  
進める島原道路の整備でも広  
域交通ネットワークの形成に  
よる地域産業活性化や観光振  
興が期待されます。

建設産業は、地域の守り手  
として、災害後の復旧・復興  
を担う、地域にとって欠かさ  
ずの重要な産業分野であ  
り、若者が希望を持って働き  
続けることができる業界とな  
ることが大変重要です。地域  
の建設業の維持・発展のため  
に「新・担い手3法」に基づ  
く週休2日をはじめとする  
「働き方改革」やICT活用  
工事などによる「生産性向上」  
の取り組みを更に推進してい  
く所存です。

最後になりましたが、本年  
が皆様にとりまして、実り多  
い年になりますことを祈念  
し、新年のご挨拶とさせていただきます。



### 港の元気なくして地域の元気なし

長崎港湾・空港整備事務所

所長 大庭 靖貴

新年あけましておめでと  
うございます。  
昨年、西九州新幹線が開

候変動の影響で雨の降り方が  
激甚化・頻発化しており、一  
刻も早い、防災・減災、国土  
強靱化の実現に向けて、待っ  
たなしの状況です。

現在、当事務所では、西九  
州自動車道松浦佐々道路をは  
じめとする道路整備や本明川  
の河川改修・ダム建設事業、  
雲仙普賢岳の溶岩ドームの監  
視等の砂防管理等を通じて、  
防災・減災、国土強靱化に向  
けた取組を進めております。

本年も引き続き、「防災・減  
災、国土強靱化のための5か  
年加速化対策」予算等を活用  
しながら、一般国道57号森山  
拡幅森山東ICと森山西IC  
間約3.3kmの開通や、本  
明川ダムの本体着手に向けた

付替道路の整備、半造川の引  
堤工事、インフラの老朽化対  
策等を確実に進めて参りたい  
と考えております。

一方で、地域に元気な建設  
業がしっかりと存続していく  
ことが、災害からの迅速な復  
旧・復興に不可欠と言えます。  
令和6年度の「労働時間の罰  
則付き上限規制」の建設業界  
への適用まで残すところあと  
一年と少しとなり、業界全体  
として生産性向上に取り組むこ  
とが急がれております。賃上  
げや週休二日制の取組みは勿  
論、工期の適正化・平準化等  
を通じた働き方改革や、ICT  
施工対象工事の拡大、UA  
V・デジタル機器その他の新  
技術の導入、BIM/CIM

沖促進区域において来年1月  
の運転開始を目指し、洋上風  
力発電の現地工事が本格化す  
るとともに、9月には西海市  
江ノ島沖が新たに促進区域に  
指定されました。これらに加  
えて、ブルーカーボン生態系  
の活用推進など産学官の関係  
者と連携・協働し、グリーン  
・トランスフォーメーション  
（GX）の推進にも取り組ん  
で参ります。

結びに、本年こそはコロナ  
禍が収束するとともに、皆様  
にとりまして実りある素晴らしい  
年となりますよう心より  
お祈り申し上げます。

また、近年の激甚化・頻発  
風力発電に関しても、五島市



### より安全で、より便利で、 より暮らしやすい長崎の実現に向けて

長崎河川国道事務所

所長 金井 仁志

令和5年の新年を迎え、謹  
んで新春の御挨拶を申し上げ  
ます。

いまだ新型コロナウイルス

感染症のまん延が続いており  
ますが、昨年建設業界の皆  
様には地域の経済を力強く支  
えて頂きました。心から厚く  
御礼申し上げます。

また、昨年は、長崎大水害  
から40年、諫早大水害から65  
年という節目の年であり、多  
くの方が当時の状況を思い起  
こし、改めて災害への備えの  
重要性を再認識されたのでは  
ないかと思えます。近年、気